

ア 児童の 状況	自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活

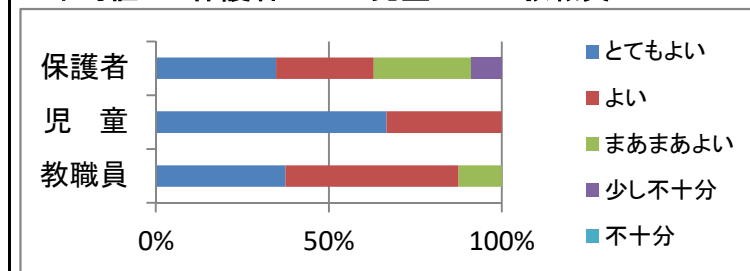
評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期	良好	学校を訪問した教育関係者から挨拶がよいと評判である。校内が綺麗なことを言われ嬉しかった。先生方の思いに子ども達が深く考えて、一生懸命答えようとする場面がたくさんあったので、今後も継続することをお願いしたい。
	後期	良好	ヒアリングや授業の様子から、前期と比較すると子ども達の声の力強さ、自分の考えを伝えようとする姿や、発表の言葉に勢いがありました。給食に同席して感じましたが、日常的に子ども達が主体的に活動できるように仕掛けることで、それが浸透し、ルールを守った活動ができていました。
学 校 の 評 価 改 善 策 の 概 要 と	<p>【前期(→後期)】今年度も、運営委員会による毎日の挨拶運動や生徒指導部の「ハロー&スマイルプロジェクト」で挨拶を重点に取り組んでいる。その成果が表れ、児童や保護者からの評価ポイントが昨年度よりもアップした。校内で子ども達同士や来客に対しても、明るい元気な挨拶が響いていることは、やはりとても嬉しいことである。これからも気持ちのよい挨拶の習慣化を図っていききたい。また、これまでコロナの影響で様々な学校行事や学習活動が制限されていたが、再びいろいろな試みができるようになってきたことで、自主的・実践的な態度も育ってきている。子ども達の主体的な活動を支援していきたい。</p> <p>【後期(→次年度)】前期に引き続き、児童の自己評価の数値は4項目とも4ポイント以上をキープしている。この数値から、本校の子ども達は「挨拶・言葉使い」「規律ある生活」「集団の一員としての自覚」に自己有用感・満足感をもって生活できていると考える。2学期に行った「ナイス！言葉使い」や「ハッピーツリー運動」が効果的だったのだと思う。この好ましい雰囲気を継続していけるよう、各種取り組みを来年度へつないでいきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉遣いの指導	4	4
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	4	4
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	4	4
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	4

[評価指標1]

(1) 元気なあいさつと正しい言葉遣い

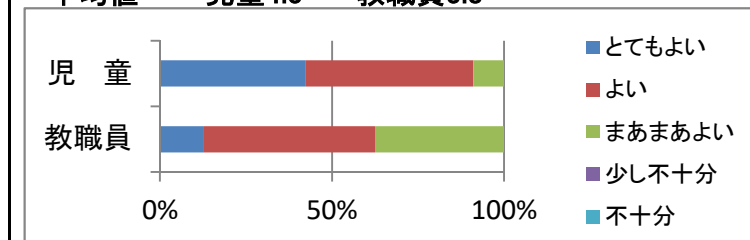
平均値 保護者3.9 児童4.7 教職員4.3



9月は「ナイス！言葉使いでにこにこスマイル！」を合い言葉に、相手の気持ちを考えて話すことを重点として取り組みました。運営委員会のメンバーが考えた「おすすめ言葉ボックス」を活用したり、友達に言われて嬉しかった言葉を紹介し合ったりして、全校のみんなで「ぼかぼか言葉」を心がけて生活することができました。

(2) 規律ある落ち着いた生活

平均値 児童4.3 教職員3.8

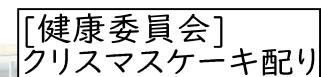
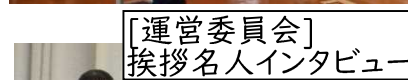
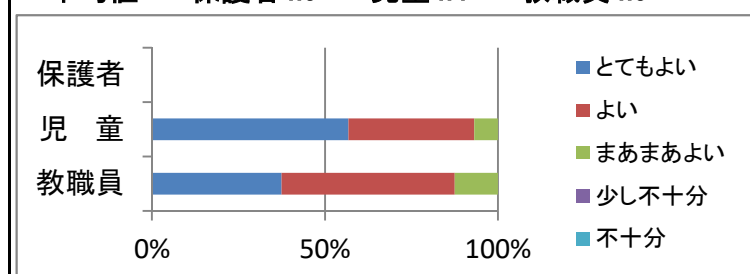


今年度は、儀式や全校集会など、全校児童が集まる場面での参加態度や話の聞き方の指導にも力を入れました。大事な場面ですっきり話を聞いたり自分の考えを伝えたりすることのできる東小っ子の姿を目指して、今後も指導を重ねていきます。

[評価指標2]

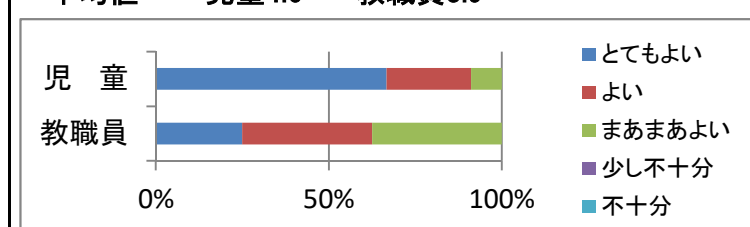
(3) 自分の考えを生かした活動

平均値 保護者4.3 児童4.4 教職員4.3



(4) 集団の一員としての活動

平均値 児童4.6 教職員3.9



本校では、みんなの学校生活がより楽しく気持ちよくなるように、4年以上の児童で、「運営」「放送」「図書」「健康」の4つの委員会を組織して活動しています。それぞれの委員会で、放送や挨拶運動、図書の貸し出し、給食の献立紹介といった常時活動の他に、季節やイベントに合わせた企画や取り組みも工夫しているおかげで、みんなの学校生活がより彩り豊かなものになっています。

ア 児童の状況

Ⅱ 思いやりの心 たくましい心

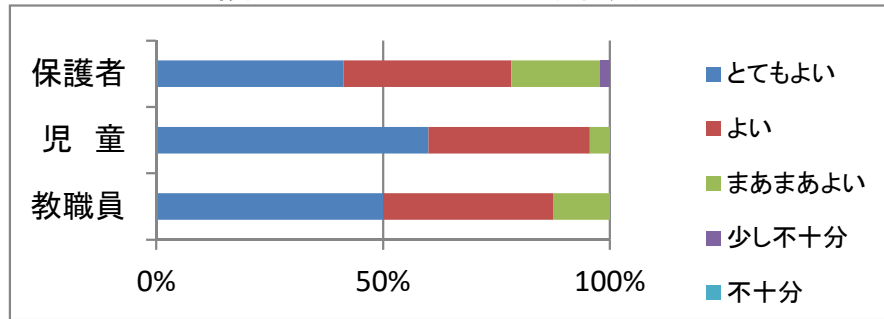
評価項目		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	高学年も低学年も仲良くやっていて、互いに思い合っていることがよくわかる雰囲気であった。複式学級の授業を参観し、互いに助け合い、思いやることで、授業が成り立っているということを感じました。
	後期	良好	きわめて良好	縦割り班の効果が大きいと思いました。上級生が給食準備の場面で一緒に活動しながら、お兄さんやお姉さんとして小さな子に声をかける時に配慮するなど、非常に思いやりのあるよい雰囲気を感じました。校内掲示から児童の人数は少ないが、大会で入賞し、また新記録を出すなど活躍していることから、たくましく成長していると感じました。
善要自 策と己 学評 校価 のの 改概	<p>【前期(→後期)】「思いやり」「自分を高めようとする意欲」「自己有用感」のすべての項目で、児童の自己評価のポイントが上がっている。コロナが一段落したことで、縦割り掃除やランチルーム給食が、またできるようになった。子ども同士の交流・関わりがあることで、思いやりや協力・助け合いの場面が増えたり、友達や上級生の頑張りや良さが子ども達にも見えやすくなったりしたことが、大きな要因と思う。子ども達の元気な姿、明るい笑顔がさらに増えるよう、後期もそれぞれの指導部で工夫して取り組んでいきたい。</p> <p>【後期(→次年度)】どの項目に関しても、数値は前期と大きく変わりはない。子ども・保護者・教職員のすべてから4ポイント以上の高い評価を得ることができた。各学年で道徳の時間の充実を図るよう、地道にコツコツと指導を続けてきたことや、子どもたちの頑張りやよさを伝える場面を工夫して多く設定してきたことが、子ども達の満足感・充実感につながっているのだと思う。来年度も、ぜひ継続していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5) 相手を思いやり助け合う心	特別の教科道徳の充実 異学年交流	4	4
	(6) 自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	4	4
4 集団生活・集団行動	(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	4

[評価指標3]

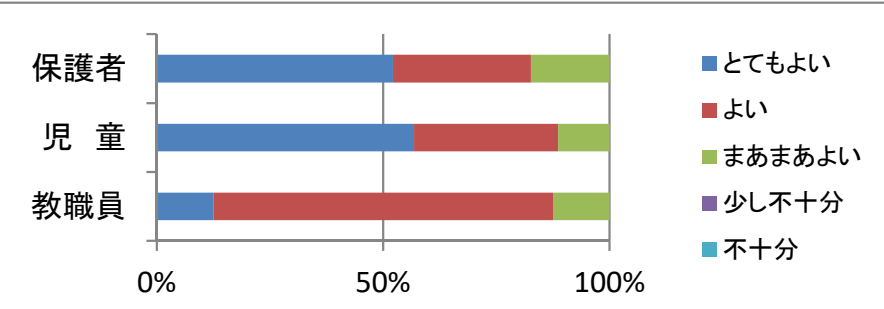
(5) 相手を思いやり助け合う心

平均値 保護者4.2 児童4.6 教職員4.4



(6) 自分を高めようとする意欲

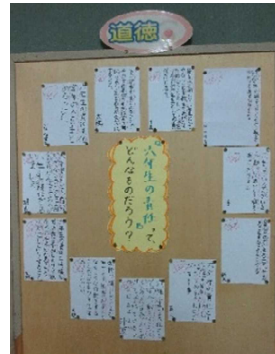
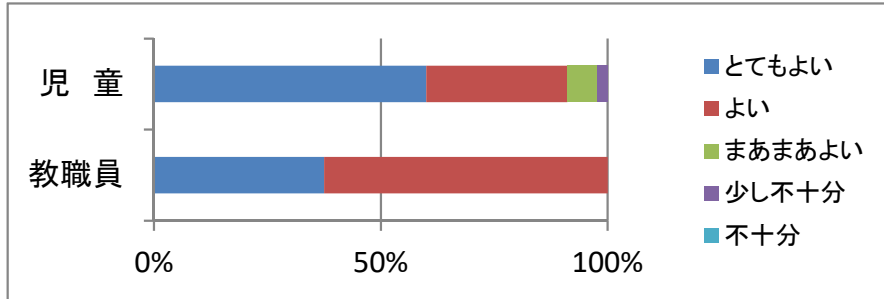
平均値 保護者4.3 児童4.5 教職員4.0



[評価指標4]

(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級

平均値 児童4.5 教職員4.4



各学級でそれぞれ工夫し、道徳の時間の充実に努めている。教室に「道徳コーナー」を設けて、一人一人の考えや振り返りを紹介することで、多様なものの見方や考え方に触れることができるようにしている。4年生では自分たちの成長の足跡を確かめられるよう、これまでの学習内容をすべて掲示しているが、これも有効な試みと考える。

今年もたくさんの実をつけた「ハッピーツリー」



各種コンクールや大会での 東小っ子のがんばり

子ども達がそれぞれのよさを認め合ったり自分の成長や頑張りにも自信をもつことができるよう、今年も「ハッピーツリー運動」を行った。給食の時間に運営委員会が寄せられたメッセージカードを全校で紹介したが、みんな嬉しそうに発表を聞き合い、心温まる時間となった。また、各種コンクールや大会で活躍した子ども達を全校集会で表彰し、みんなに紹介した。こうして友達の頑張りを認めることで、「自分もがんばろう」という新たな意欲を引き出せたら、と考えている。

ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

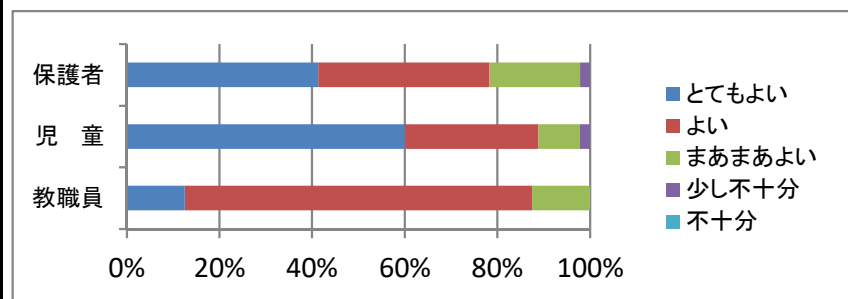
評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント	
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	良好	スポーツに関して、陸上、野球、水泳の活躍が素晴らしい。人数は少ないが、入賞や優勝、新記録を出している。体育の授業でも力をつけていて大変いいと思います。メディアコントロールについての改善は今後も継続してほしいです。
	後期	良好	良好	一緒に給食を食べてみて、みんな仲良く静かにルールを守って食べていました。また子ども達は時間内にきちんと食べ終わっていたし、食べ残しも少なく、偏食もなく頑張って食べていると感じた。体力の面は、廊下にも飾られている通り、色々な大会で入賞していてスポーツ面でも結果を出しているの素晴らしいと思いました。
改善自己評価の概要と学校の	【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、保健指導や学校保健部会による「生活習慣とメディアに関する実態調査」を実施したことが数値が上がった要因と考えられる。これからもメディアコントロールを中心に健康的な生活習慣についての指導を行っていく。望ましい食習慣の形成では、栄養職員による食に関する授業の実施やランチルーム給食にて苦手なものでも頑張って食べようとする児童がいることが数値が上がった要因と考えられる。しかし、好き嫌いの多い児童もいるため、委員会活動での呼びかけや、栄養職員による食育指導を継続して行っていく。体力と運動能力の向上では、体力向上活動を行ったことにより、子どもたち同士で体を動かそうという意識づけができたことが数値が上がった要因と考えられる。これからも、委員会活動を中心に体を動かす機会を設定し、全校で取り組んでいく。			
	【後期(→次年度)】健康的な生活習慣の定着では、大館市一斉メディアコントロール週間や健康委員会で行った「インフルエンザ予防プロジェクト」が子どもと教職員の評価が上がった要因と考えられる。次年度も健康委員会を活用して、感染症予防に取り組んでいく。望ましい食習慣の定着では、苦手なものでも一口は食べたり、食べられるようになった児童もいるが、嫌いな物を残す児童もいるため、評価が下がったと考えられる。栄養教諭以外にも、健康委員会を活用して、食に関する指導等を行っていききたい。体力と運動能力の向上では、暑さやクマの出没等により、外遊びや授業ができなかったことが子どもや保護者の評価が下がった要因と思われる。健康委員会を活用し、屋内で遊べる活動を企画したり、ミストシャワー等を設置して熱中症予防を行ったりと、屋内外で体を動かす活動について考えていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	4
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通じた食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	4
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体カテストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	4

[評価指標5]

(8)健康な生活習慣の定着

平均値 保護者4.2 児童4.5 教職員4.0



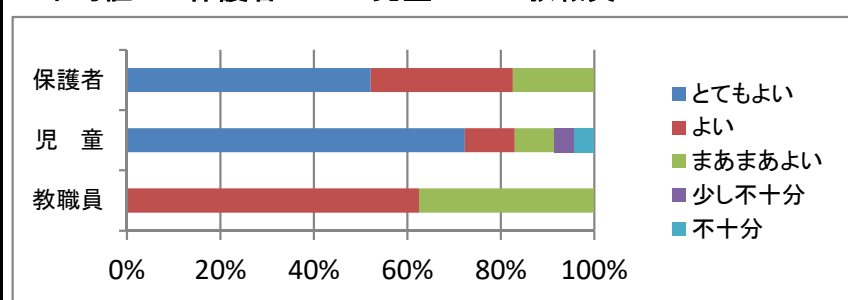
大館市一斉メディアコントロール週間(9月)

大館市内の小中学校で一斉メディアコントロール週間を行い、早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロールに取り組んだ。期間中は健康委員会で作成したポスターを校内に掲示した。掲示することで、全校で頑張ろうという意識付けができた。これからは生活習慣が定着できるような指導を継続していく。



(9)望ましい食習慣の形成

平均値 保護者4.3 児童4.5 教職員3.6



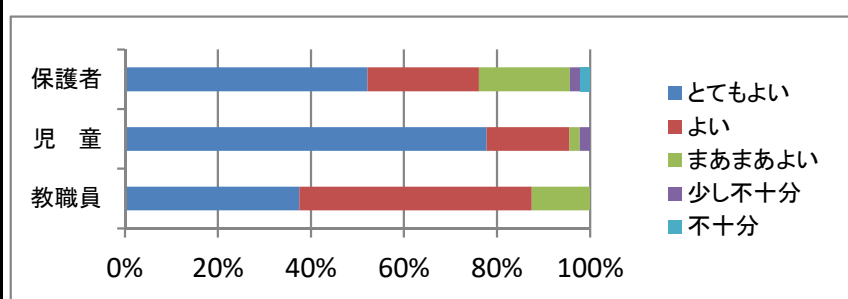
食に関する指導(10月)

栄養職員の久慈先生に給食時間に来ていただき、食に関する指導を実施した。給食センターでの準備や調理等について話していただいた。次年度は、栄養職員以外にも、健康委員会を活用して、食に関する取組・指導

[評価指標6]

(10)体力と運動能力の向上

平均値 保護者4.2 児童4.7 教職員4.3



マラソン記録会(10月)

さいがわマラソンや授業中等の練習を経て、全校でマラソン記録会を実施した。体調不良で数名走ることができなかったが、応援やお手伝いを一生懸命頑張っていた。また、走った児童は全員完走することができた。これからは体力や運動能力が向上できるように指導していく。



さいがわマラソン(10月)

マラソン記録会に向けて、さいがわマラソンを実施した。自分の体力や体調に合わせて、何周走るのか目標を決め、時間いっぱい走った。マラソン記録会等の体育行事前に実施をすることで、体力向上に繋げることができたため、次年度は健康委員会が主体となってさいがわマラソン等の体力向上活動を実施していきたい。



ア 児童の状況

IV 基礎学力

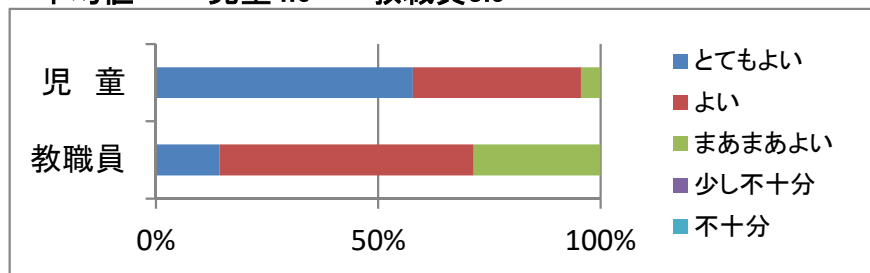
児童生徒の状況		自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組む、学力を向上させようとしている。	前期	良好	良好	学力は、今いい状況だと思う。今日は授業を参観して、楽しくやっている学級が多く、授業内容が良いからだと思いました。活発な面も見られたので継続して進めてもらえればと思います。
	後期	良好	良好	授業を見ていてみんなが一齐に手を挙げていて、先生が1人を指名した後は、子ども同士で指名して発表が進んでいくというスタイルが身につけていました。発表の時に、自分の意見にその理由付けをしっかりと準備していたり、考えていたりしている子どもが増えていると感じました。
と自己校評の価改の善概要	<p>【前期(→後期)】授業を見ていただく機会を通して子どもたちが鍛えられたり、授業改善に取り組んだりしたことが、全体的な評価の向上に繋がった。また、子どもや教職員の評価については、コロナが5類になり学習形態や学習活動の制限が緩和され、共感的・協働的な学び合いがより実施されるようになったことが、学び合いの充実にも繋がった。今後は、複式学級が2つになることも見据えた学習リーダーの育成と活用はもちろんだが、みんなで学び合いを進めていけるような授業の基盤づくりをしていきたい。また、ICT研修やICTを使った授業実践を積み重ね、効果的に活用できるようにしていきたい。</p> <p>【前期(→後期)】前期に比べて、全体的に評価が上がった。県学習状況調査に向けたパワーアップの取り組みや、調査後の解説や回復指導の実施が評価の向上に繋がったと考えられる。主体的な学習態度について、学習リーダーの育成・活用を目指し取り組んだが、全員で学び合う、学び合っている実感には繋がりにくかった。次年度は学習リーダーの育成と活用に加え、学び合う集団として一人一人の伝え合う力を伸ばすために、子どもたちに任せる場面を設定したり、活動や学習の振り返りの実施や共有を大切にしていきたい。ICTの活用は、今後も継続して取り組んで行く。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 学習への取組	(11) 基本的学習習慣の定着	聞き方・話し方指導の徹底 「学習の7か条」の徹底 ハンドサインの活用 ノートの使い方指導 家庭学習の励行	4	4
	(12) 基礎学力の定着	学習が定着する授業の構築 パワーアップタイム 東小っ子テスト	4	4
	(13) 主体的な学習態度	学び合いの場の確保 学習課題の吟味 指導方法の工夫	4	4
8 諸検査の状況	(14) 学習状況調査・学力検査等の結果の改善	実態把握と課題分析 回復指導の実施	3	4

【評価指標7】

(11) 基本的学習習慣の定着

平均値 児童4.6 教職員3.9



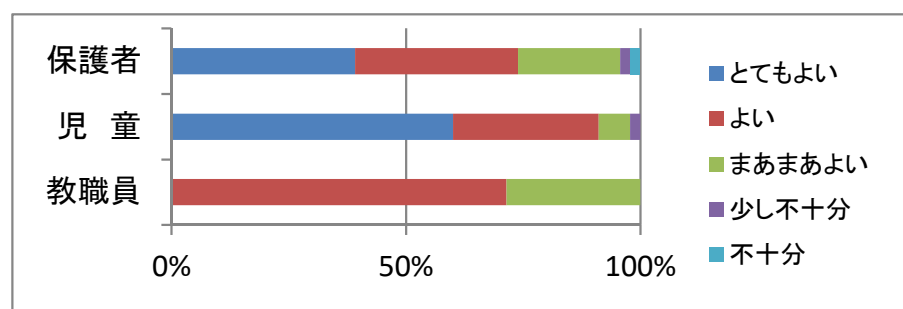
【学びの花】

家庭学習の励行を目的として、学びの積み重ねを可視化できるように「学びの花」を設置した。花が満開になり、より子どもたちの意欲アップに繋がるように手立てを工夫していきたい。

←学期ごとに花、クラス全員が一冊終了で葉を飾った。花が満開になるように、3学期からは誰かが1冊終了すれば花を飾ることにした。

(12) 基礎学力の定着

平均値 保護者4.1 児童4.6 教職員3.7



【基礎学力の定着を目指したパワーアップの取り組み】

学力定着のために、パワーアップタイムを実施した(県学習状況調査前と調査後。調査後のパワーアップは現在実施中)。調査前のパワーアップでは学習状況調査の過去問に取り組み、少人数グループに分かれて学習することで、一人一人の学びに寄り添えるようにした。調査後のパワーアップでは、諸検査の結果やこれまでの学習状況を踏まえ、補充が必要な単元の指導や短作文などに取り組んでいる。

【学習リーダーの育成と活用】

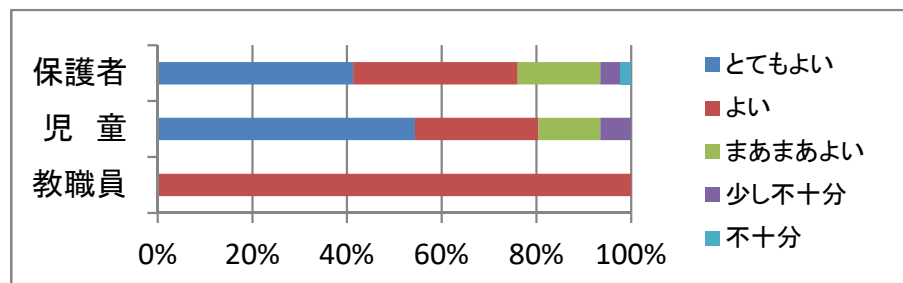


複式学級(3年生)の様子。学級担任が2年生の指導をしている間、学習リーダーを中心に自分たちで問題について話し合っている。

↑ 司会(進行役) 補助(板書役)
司会は学び合いの進行をし、補助は発表者の考えのポイントなどを板書する。

(13) 主体的な学習態度

平均値 保護者4.1 児童4.4 教職員4.0



来年度から複式学級が2学級になることもあり、学習リーダーを中心として学び合いを進められるように指導・支援してきた。低学年では司会カードを用意したり、高学年では司会(進行役)と補助(板書役)のペアで実施したりと、発達段階に応じて形態を工夫しながら取り組んでいる。

ア 児童の状況

V 組織運営

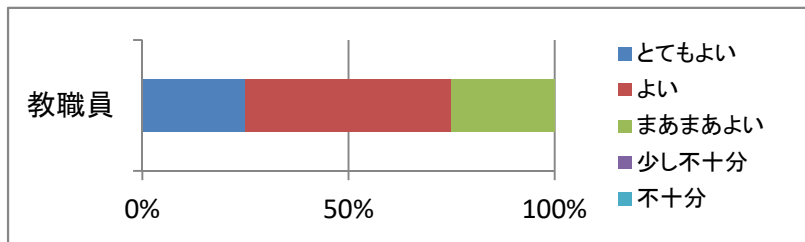
児童生徒の状況	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント	
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期	良好	良好	運動会の時、先生方の人数が少なく準備するのも運営するのも大変だと思って見ていた。それを保護者の協力体制が良いことで助け合い、順調な運営ができていたので、これからもお互い協力してほしいと思います。
	年度	良好	良好	各教育活動に必ずねらいをもたせていて、そのねらいを職員が共有しながら方向性をもって具体的に実施できていると感じました。また比内とりの市に参加し、ふかわりょうさんと「とんぶりダンス」で、見に来てくれた地域の皆さんを楽しませてくれるなど、子ども達が頑張っていました。
改善自己評価の概要と学校の	【前期(→後期)】指標9の教職員の学校運営参画に関しては、「目指す子どもの姿」を全職員で共通理解し、重点施策に取り組むことができた。また、各指導部の施策が現在の子どもの実態に即しており、取組の結果子どもに変容が見られことが評価の向上に繋がったと考えられる。指標10の教育課程の編成と実施に関しては、昨年の反省を受けてキャリア教育の計画を見直し、各学年の指導計画に基づいて学習が進められ、様々な体験が子どもたちの成長に繋がったと考えられる。授業改善と指導力の向上に関しては、所長訪問や東北6県教育長研修会など、1学期に授業を見ていただく機会があり、全校で同じ方向に向かって授業改善に取り組むことができた。後期も様々な研修の機会を活用して更なる授業改善と指導力の向上に努めたい。			
	【後期(→次年度)】後期は、昨年度まで中止や規模縮小など制限のあった様々な活動が、教職員全員の協力の下で実施することができた。子どもたちの自己有用感を高めようと考えられた各指導部の施策が、子どもたちの意欲の向上や自信に繋がったと考えられる。また、地域の特産物であるとんぶりの活動に全校で関わったことは、地域を知り全校で協力することの大切さを考えるよい機会となった。来年度複式学級が2つになり職員が1名減るため、キャリア教育の計画の見直しを図りながら、子どもたちのよりよい成長に繋げていきたい。また、お互いの授業を参観するなど研修の機会を設け、日常的に指導についての情報交換を行うなどして、一人ひとりの指導力の向上に努めたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	4	4
	(16) 各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	4	4
10 教育課程の編成と実施	(17) 特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	4	4
11 職員研修	(18) 授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	4	4

[評価指標9]

(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解

平均値 教職員4.0



☆「東館3つのH」の施策の提案・実践

9月 実行力アップパート2(生徒指導部)

～ナイス！言葉づかいで、にこにこスマイル！～

相手の気持ちを考えて話すことができる子ども、場に応じた言葉づかいができる子どもを目指して、アンケートで実態を把握しカードを活用して意識付けを図ることができた。

10月 話し力アップ(学習指導部)

～アクティブに発信しよう～

授業中の発表や返事の声の大きさ、はきはきとした話し方や反応しながら聞くことの指導、さらにみんなで学習していく雰囲気づくりを重点に指導を行った。また、学習発表会に向けて、広い体育館で大勢の人に聞いてもらうことを意識した話し方の指導に力を入れた。

11月 実行力アップパート3(生徒指導部)

～にっこりサンキューでハッピースマイル！～

一生懸命がんばっている友達やみんなのためによい行いをした友達を全校で紹介する取組を行い、ハート型のカードに記入して掲示した。また、給食の時間に紹介し、子供たちの意欲付けを図った。自分の学級だけでなく、他学年の行いについて紹介するなど、たくさんの人のよいところに目を向ける貴重な機会となった。

12月 学習をパワーアップしよう(学習指導部)

県学習状況調査(4年生以上)やCRT検査(全学年)に向け、これまでの学習の復習に全職員で取り組んだ。学級全体で落ち込んでいる内容や、過去の回答傾向で間違いの多かった問題を中心に計画的に学習を進めたことで、子供たちの理解が深まった。今後はこれまでの諸検査の結果を分析し、進級までの間に一人一人の確実な理解と定着を促したい。

1・2月 健康力アップパート3(保体指導部)

～1年間を振り返り、健康力をさらにアップさせよう！～

☆各学年のふるさとキャリア教育☆

- 1年: 比内図書館見学 さつまいもde料理 保育園との交流会
- 2年: 比内図書館見学 さつまいもde料理
- 3年: とんぶり販売 とんぶり加工場見学
- 4年: とんぶり販売 独鈷ばやし練習
- 5年: 大葛金山太鼓発表 とんぶりダンス
- 6年: お仕事調査隊(準備)

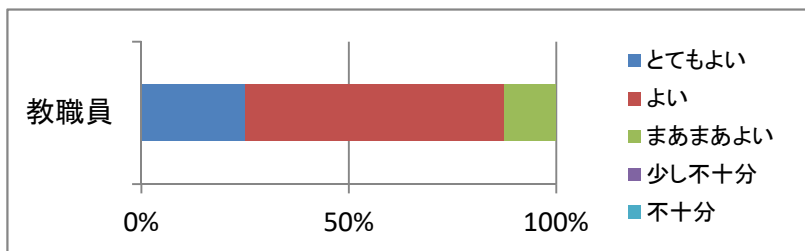


1・2年 さつまいもde料理

[評価指標10]

(17) 特色ある教育課程

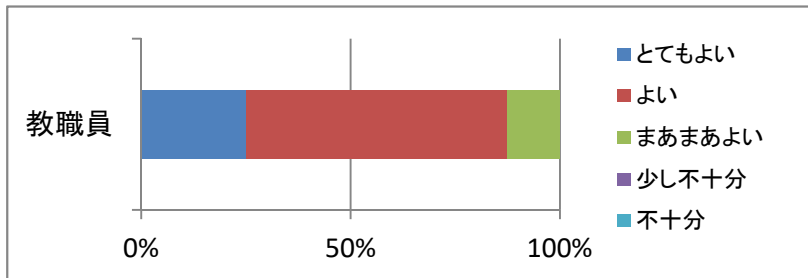
平均値 教職員4.1



[評価指標11]

(18) 授業改善と指導力の向上

平均値 教職員4.1



5年 金山太鼓披露



3年 とんぶり加工場見学

ア 児童の状況

VI 保護者・地域との連携

評価項目	自己評価A	協議会委員評価	協議会委員のコメント	
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	学校の情報をホームページや学校報やお便り等で発信し、学校全体の取組が地域からも認められているので非常に良い。5年生が歴史ある金山太鼓の伝承を熱心に頑張ってくれ、初回の練習から上手に出来たことは凄いと思った。
	後期	良好	きわめて良好	運動会での「独鈷ばやし」は見に来た地元の人が感動し喜んでいるので、できるまで続けてほしいと思います。子ども達が卒業までの間、運動会や学習発表会で地域の伝統芸能の継承に関わり、故郷を大切に子どもたちを育ててくれていることが、とてもありがたいと思っています。ただ、先生方の負担にならない工夫もして、子どもが健康で笑顔で過ごすこともどうお願いしたいです。

自己評価の概要と学校の改善策

【前期(→後期)】
 昨年の前期評価と比べると全体的にポイントアップとなっている。(19)保護者4.0⇒4.2、教職員3.9⇒4.2、(20)教職員3.9⇒4.1、(21)保護者4.1⇒4.3であった。情報発信として、毎月の学校報や、学級通信、各行事を事前に学校サイトでの紹介による成果である。また、登校時、校門に立つ校長の児童への声かけや保護者との情報交換や、職員の丁寧な対応が学校への安心感や話しやすい関係に繋がったと考える。そして、様々な学習活動や体験活動に保護者が関わる機会が増え、コロナ以前の取組に戻ってきたことも評価アップに繋がったと考える。課題として、(21)教職員4.3⇒4.2と低下していた。これは豊富な地域素材や人材を効果的に活用できていないと評価したためではないかと思うため、効果的な活用について検討しながら、さらに充実した活動ができるよう取り組んでいきたい。

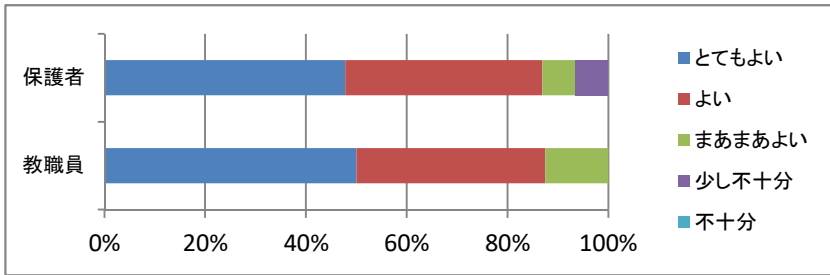
【後期(→次年度)】
 (19)前期に引き続き、毎月の学校報に子どもたちの活躍の様子や、学校の取組などを掲載し、児童への配付だけでなく、各地区の各家に配信することができた。また、地域コーディネーターの岸さんから、行事予定や事後の様子をブログに掲載してもらい、本校の活動を広く配信することができた。そのおかげで、後期も保護者の方、地域の方からたくさん協力を得ることができた。
 (20)後期も、朝校門で校長先生が、子どもたちを出迎え、それが保護者の方にとって強い安心感へ繋がっていた。また、子どもや保護者の相談事に、先生方の丁寧な対応が相談しやすい関係が確立し、頼りやすい学校となっていると感じるため、これからも継続できるようにしていきたい。
 (21)「とんぶりの収穫」、「キッズマートのとんぶり販売」、「心のかけ橋フェスティバル」では、地域の方や、保護者の方から多くの協力を得たことは「地域との強いつながり」と捉え、来年度にも繋がるよう大切にしていきたい。ただ、地域人材の効果的な活用として「お仕事調査隊」を計画していたが、インフルエンザ感染者の増加により開催できなかったのは残念であった。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19) 学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	4
	(20) 保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校運営協議会等の開催	4	4
13 地域の教育力の活用	(21) 地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	4

【評価指標12】

(19) 学校の様子が伝わる情報発信

平均値 保護者4.3 教職員4.4

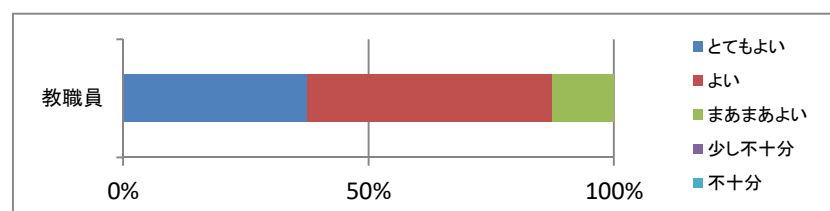


【学校の様子が伝わる情報発信等】

- ① 毎月発行の学校報「犀川」の学区全戸配布
- ② 隔週発行の各学級の「学級だより」
- ③ ホームページによる学校経営方針等の明示
- ④ ブログによる日々の学習活動の紹介
- ⑤ 新聞記事への掲載(学校行事・スポーツの活躍)
(キッズマート、秋田犬絵画展、心のかけ橋フェスティバル)
- ⑥ テレビ放映(とんぶり収穫、キッズマート)
- ⑦ 一斉メール配信
(テレビ放映のお知らせ、感染症予防や注意の呼びかけ 熊出没等の注意喚起)

(20) 保護者・地域からの情報収集

平均値 教職員4.3



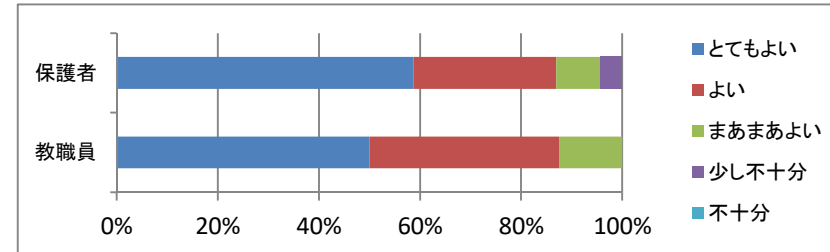
【保護者・地域からの情報収集】

- ① 心のかけ橋フェスティバル(祖父母の方と交流会)
だまこ鍋を作りと会食をして、学校や地域の情報交換をして、地域の方との親睦を深めた。
- ② 2学期末PTAの学級懇談で、学校や家庭の子ども様子について情報交換した。また、3・4年生は保護者との調理体験を通して、親子でふれ合う機会となった。
- ③ 子どもサミットに参加した代表児童が、他校生との交流から各校の取組について情報交換することができた。
- ④ 1/9～12に南種子町交流事業へ児童1名と職員1名が参加し、大館市と南種子町について情報交換から違いや故郷の良さを再発見することができた。

【評価指標13】

(21) 地域素材や人材の効果的な活用

平均値 保護者4.4 教職員4.4



【地域素材や人材の効果的な活用】

- 《生活科》
 1・2年生の遠足で、ベニヤマ自然パークでの体験活動。
- 《特色ある教育活動》(総合的な学習の時間等)
- ① 2・3年生
とんぶりの活動で、種まきの活動をした。また学習発表会で、1年間のとんぶりの活動を劇にして発表した。劇の最後に6年生も参加して、「とんぶりの唄とダンス」を披露した。
 - ② 3・4年生
とんぶり広め隊「キッズマート」の活動として、とんぶり生産者の本間均さん、児童保護者の方の協力を得ながら、全校児童で収穫したとんぶりを「道の駅ひな」で4年生が販売。
3年生の宣伝効果もあり、準備した700袋を全て完売した。
 - ③ 4年生
「独鈷ばやし」の継承活動として、独鈷ばやし保存会の神成幸忠さんから指導を受け、伝統芸能の継承に取り組んだ。
 - ④ 5年生
「金山太鼓」の継承活動として、加賀谷廣美さんの指導を受け、伝統芸能の継承に取り組んだ。学習発表会で英語劇と組み合わせ、「金山太鼓」の演奏を、お客さんに披露した。
 - ⑤ 6年生
大館税務署2名の方を講師に、「租税教室」を開催した。
 - ⑥ 3～6年生
お仕事調査隊 ※計画を立てたがインフルエンザ拡大で中止した。
 - ⑤ 全校スキー教室「水晶山スキー場」
保護者の方に補助や指導の協力を依頼した。また、比内地区・大館地区スキークラブから指導員を派遣してもらい実施した。

